

令和6年度 倉敷市地域福祉基金助成事業実施アンケート

助成期間: 6年度～ 6年度

団体名: 寺子屋まある

一年活動をしての感想

※参加者に喜んでもらったこと、地域福祉基金からの助成がこういったことに生きていることなどを自由に記載してください。

①実施した内容

- ・スクールソーシャルワーカーの見学会
 - ・利用前に利用希望の方の情報やスクールソーシャルワーカーの方針を確認。また利用した時の子どもや保護者の様子をスクールソーシャルワーカーにフィードバックし、共有を行った。
 - ・保護者の方の相談を個別で実施。
 - ・子どもたちが安心して過ごせるよう、物作り、ゲーム、また自由に過ごせる時間を設けた。その際、おやつ時間を設け、好きなお菓子を選ぶなど楽しい時間を過ごせた。
 - ・親の会(おやまあるの会)を開催。子育てトークやテーマを決めてトーク。その場で困ったことや悩みを語る場面もあり、参加者同士が理解しあえ、また情報を共有。防災の話題を提供し、話し合った。
 - ・クリスマス会を開催。講師(ボランティア)から教えていただきながら、キャンドルを作った。
- また、クリスマス動画を見たり菓子等をいただきながら過ごした。

②参加者の感想

- ・悩みのはきどころがあって、助かった。
- ・聞きたい、相談したいことがすぐに聞けたり、親の焦る気持ちが抑えられたのでよかった。
- ・これまで悩みを誰にも打ち明けず、自分自身が頑張ることが当たり前だと思っていたけど、おやまあるに参加させていただき、同じように苦しみ頑張っているお母様たちに出会えて、勇気が沸いたし、まあるのスタッフに相談にのってもらって、進む道を明確にできた。出会えてよかった。
- ・話をきいてくださり、ありがとうございます。

③地域福祉基金の有用性

- ・利用する子どもたちは、製作活動が好きなので、材料を購入したり、またお菓子や飲み物もあることで別の楽しみも子供たちに提供できた。
- ・製作活動は、できたものを家族に見せ、父母から褒められたり、家族で話をするきっかけに繋がった。
- ・親の会(おやまあるの会)にて、負担なく通いやすい場所として、有料だが公民館を利用することができて安定的に開催することができた。

④今後の展開・夢・課題など

- ・不登校及び不登校傾向のある子どもは、外に新たな居場所を作っていくこと自体ハードルが高い。よって利用する子どもの人数は流動的である。一旦繋がっても継続的に参加できるかと言えばそうではない。無理に来ていただく場所ではないので、まずは一歩踏み出す場所として有効に使っていただけるよう、環境を整え続けることが大事であると考えている。
- ・展示会を開催できなかったのが、実施したい。これまで子どもたちが作ったものを展示し、見に来てくださった方から評価をいただいて、子どもたちが楽しい、嬉しい、と思ってくれるような機会を提供したい。
- ・不登校及び不登校傾向の子どもを持つ保護者の方は日々子育てに追われている状態で、不安も高い。保護者の方がそもそも持っている力が発揮できる機会があったり、少しでもほっとしていただけるきっかけが寺子屋まあるでできるように勤めていきたい。例えば、保護者企画やイベントの手伝い、大人のためのストレッチ、物作り、食関連、植物に触れるワーク等。